

秋田県の農村における母子衛生について III

3才児検診の精神検査法試案について

母子衛生科 小 西 玲 子
小 野 山 直 子

I はじめ

昭和36年に児童福祉法の一部改正に伴ない発足した「3才児健康診査」は、その方針として、3才児は幼児期において身体発育および精神発達の最も重要な時期として、その総合的な健康診査を目的としていた。

しかし、全国的傾向と同様、本県においても児童精神発達についての専門家が少なく、ほとんど身体的な面のみとらあげられていたのが実情である。

3才児検診も回を重ねる毎に、従来の検診方法は、その本来の目的を果しておらないことにたいする関係者の不満、それに加えて、昭和41年度より展開された「不幸な子供をうまない運動」の県民運動と相まって、より充実した3才児検診が望まれることになった。

最近、愛育研究所グループの研究、その他各県でもその方法等検討されつつあるが、吾々も、本県における3才児の総合的検診へと接近するため、秋田大学心理学部中村二郎助教授、秋田県中央児童相談所心理判定員安部正男氏の御協力のもとに、精神面に関するスクリーニングテストの作成を試みた。

3才児は人格面の発達においても一時期を劃するものであって、語い数も著しく増加し知能も分化し始め、情緒表現が活発になり、社会性の成長等がなされる時期であるので、スクリーニングテスト作成にあたっては、単なる知能テスト的なものに偏らず、対象幼児の人格面について総合的に把握することにより、障害児(主として精神発達遅延 滞児)の発見の他に、保健指導の参考資料としても利用しうることを目的とし、又テスト施行の際には一般の検診の場(保健所を中心とした医師、保健婦、その他の関係者)で、手軽にしかも短時間に実施出来ることを最低の必要条件として考慮した。

I 方 法

1) テスト構成

附記の如く、プレテストとして保育所で行なった問診法による母親と保母の不一致率が、各項目30.0%〜10.8%の間にあることより、スクリーニングテストの構成は、別表に示すとおり、社会生活能力、情緒・性格・知的発達の部からなっており、質問紙による評定と、子供についての直接の行動観察のテストによる評定の2つの方法を使用し、子供については家族の情報と、検査者による直接観察の2つの面からの総合的把握を意図した。すなわち、

別表 3才児検診用精神検査(試案)

Part 1 社会生活能力調査

氏 名	男女		住所	
生年月日	昭和	年 月 日	父 年令	職業
満 年 令	検査 月 日	昭和 年 月 日	母 年令	職業
S. A.		SQ	同居している祖父あり なし、祖母あり、なし	
		得点	保育所に入ったことなし、あり 年 月より	

この問題の合格・不合格は原則として各間がやらせればやることが出来るかどうかでなしに、平常の生活を観察して、それをやってみるかどうかによって決められます。いつもしているには○印、していないには×印、分らないには?を各々()の中に記入して下さい。

- 1 () さじの使用が出来る(食事時)
- 2 () 自分でお茶碗から飲める
- 3 () 排尿を予告する
- 4 () キャラメル等の包み紙を開く
- 5 () 庭を歩く
- 6 () おさじとお茶碗を両手に使用出来る
- 7 () おむつを使わなくなる(昼夜とも)
- 8 () 上衣を脱げる(前の開いたもの)
- 9 () お箸の使用が出来る

- 10 () 完全に1人で食事が出来る (お魚の骨をとってやる等はかまわない)
- 11 () 手を洗う (命ずれば出来ればよい)
- 12 () 上衣のボタンがかけられる (前開きの上衣、一番上のボタンはかけられなくともよい)
- 13 () 靴が1人ではける。
- 14 () 排尿の自立 (1人でパンツをとって)
- 15 () 顔を洗う (石けんは使わなくてもよい)
- 16 () 新聞などをとって来る (命ずれば)
- 17 () 鼻をかむ (すっかりきれいになくらくてもよい)
- 18 () 小さな怪我ではなかない。
- 19 () 排便の自立 (後仕末までする)
- 20 () 自分で着物をきる (ふだん着の場合)
- 21 () 魚の名を3つ以上言える
- 22 () 年長の人にあいさつする (うながせば)
- 23 () はさみで形を切りぬく (上手でなくてもよい)
- 24 () ひもがむすべる (たて結びでも良い)
- 25 () 歯をみがく (自分でみがくか)
- 26 () 踏切りを1人で渡れる (自動車の多い道路等1人で渡れるか)
- 27 () 双六やカルタが出来る (簡単なルールで)
- 28 () 時に自分の寝具を片づけ或は庭の掃除をする (親の手助け程度でもよい)
- 29 () 4kmあるける (つかれてぐったりせずに)
- 30 () 厚紙が切れる (小刀で切れるか)
- 31 () 小さな怪我に自分で薬をつける (アカチン、メントム等)
- 32 () 鉛筆がけずれる (上手でなくても良い、新しい鉛筆はけずれなくともよい)
- 33 () ゆきなれた所なら1km位の所へ1人でいける
- 34 () 時々炊事の片付けをする (お皿や茶碗をはこぶ等)
- 35 () 野菜の名前6つ以上言える
- 36 () 草取りをする (命ずれば)
- 37 () 自分でつめを切る (はさみで片方のつめのみでよい)
- 38 () お客にいったら行儀よくふるまう (しばらくの間、すぐに帰ろうといわない)
- 39 () 順序を守って乗物にのったり、右側通行を守る

Part 2 情緒, 性格, 度態の評定

		+ 1	0	- 1	
保護者から聴取	全般的に態度がしっかりしている				全般的に幼い
	落積している				落積がない
	感情的にならざきわげがよい				すぐにおこったり、かんしゃくをおこしたりする
	減多に泣かない				すぐ泣く
	自分の事は自分でやろうとする				何でも親にしてもらおうとする。
	近所の子供と遊ぶのを好む 態度が活発である				ひとり遊びが多い 不活発
検査場面の観察	理解力が旺盛				理解力助る
	自発的にやる				自発性がない
	興味意欲を示す				興味意欲に乏しい
	検査場面におじけつかない				おじけづく
	言語反応活発				不活発
	精神テンポ早い 表情豊か				のろい 表情に乏しい

Part 3 精神検査

- 1. 形態弁別 + -
- 2. 楷作り + -
- 3. ボタン選び + -
- 4. 了解問題

- おなががすいた時にどうしますか + -
- ねむい時にはどうしますか + -
- 5. 大小弁別 (a) + - (b) + -
- 6. 図形模写

Part 4 身体状況 省略

結果

Part 1	Part 2	Part 3	Part 4
C.A.	+ ()	1 () 2 ()	正 常 要 注 意
S.A.	0 ()	3 () 4 ()	要 訪 門
S.Q.	- ()	5 () 6 ()	要 精 検

実施上の注意

Part 1. (母親にチェックしてもらう)

出来るかどうかでなく、平常にやっているかどうかによって決められる。

- やっている。 ○
- やっていない。 ×
- わからない。 △

Part 2. (上段は母親から聴取する。観察の方はPart 3をやらせながらその印象をつける)

原則として+・一何れかに決めること。どうもはっきりしない時は中央にチェックする。

Part 3. (母親の助言なしにやらせること)

1. 形態弁別

□○△ □△□ の用具を図のようにして置き、検者が言葉ではめこむよう説明する。2回試みて、1回出来れば + (3分以内)

2. 橋作り

検者3ケ、被検者3ケ用意する。

検者が積木を □□ に作ってみせ、そのままみせておいて、同様の橋を作るよう命ずる。2回試み1回出来れば +



3. ボタン選び

白5ケ、黒5ケ混ぜ、白黒に分けなさいと命ずる (説明は、わかるよう何回くり返してもよい)

1回試み、出来れば +

(どうにも解らない時は、白、黒と分けてみせて暗示を与えてもよい)

4. 了解問題

"おなかがすいた時はどうしますか"

"ごはんをたべる" "おやつをたべる"

"ねむい時はどうしますか"

"おふとんに行ってる"

何れも標準の答を得れば合格 +

5. 大小弁別

はじめ④の方をかくし、①の方を指して、"どちらが大きいですか"と質問する。次に①をかくし、④を指して同様の質問あるいは、"どちらが小さいですか"と質問する。

6. 図形模写

左の図を模写させる。3回かかせる。

④Part 1 の社会的生活能力テストは、牛島式社会成熟度検査の1才〜6才級の質問項目を用いたが、評定者である母親の要求水準の Project をなるべく避けるため、年齢は削除した。

④Part 2 の情緒、性格は、情緒表出、検査場面への適応状況をみることを目的とし、母親からの聴取によって評定するパートと検査者による観察のパートの2つからなり、各々7問づつ計14問からなり、各項目を+1点、0点、-1点の3段階に分けて評定した。

④Part 3 の精神検査は、知能発達をみるためのもの、命令の把握、行動の方向づけ、言語理解力、抽象作用の能力をみることを目的とし、鈴木ビネー法、田中ビネー法の検査の中から2才児級の問題1問(形態弁別)3才児級の問題5問の計6問を選び、そのうち図型模写を予備問題として5問実施した。

2) 実施方法

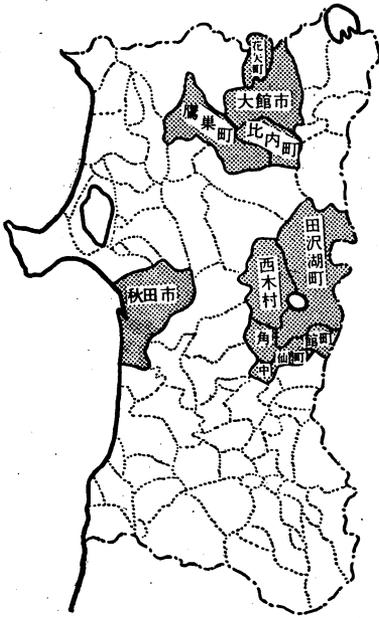
Part 1 の社会成熟度検査は、予め保護者に用紙を配布して所定の要領で記入してもらい、Part 2 の情緒、性格の評定は前半の7項目については、検査者が付添の母親から聴取して記入し、後半の7問と、Part 3 の精神検査は、検査者自身が子供についての直接行動観察により評定し記入した。

テストは、吾々の外に児童相談所安倍氏、さらに該当保健所の保健婦がこれにあたった。

3) 調査対象

テスト構成の信頼性、妥当性の検討を中心に、昭和40年〜41年度に行なわれた図1に示す9市町村の3才児検診の場で行なった。すなわち、秋田保健所管内(旧秋田市)453名、大館保健所管内(大館市、花矢町、比内町)574名、鷹巣保健所管内(鷹巣町)289名、角館保健所管内(角館町、西木村、中仙町、田沢湖町)233名、計1549名である。この調査市町村を昭和37年農林省統計調査部発表の経済地区帯区分一分類規準に合せて分類してみると、表1に示すように所謂都市近郊は秋

図1 調査地区



田市のみで、県北の中心地大館市、鷹巣町および県中央部の中仙町は平地農村であるが、他は農山村、山村である。

なお、実施成績は、該当市町村を含む保健所名でまとめ比較検討した。以下、秋田保健所管内（秋田）、大館保健所管内（大館）、鷹巣保健所管内（鷹巣）、角館保健所管内（角館）とし地区代表名とした。

表2 S Q 分布

	秋田 H.C				大館 H.C				鷹巣 H.C				角館 H.C				計			
	男		女		男		女		男		女		男		女		男		女	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
74以下	6	2.4	2	1.0	8	2.8	4	1.4	5	3.2	3	2.2	2	1.7	1	0.9	21	2.6	10	1.3
75~84	13	5.2	2	1.0	13	4.5	16	5.6	10	6.5	6	4.4	9	7.7	1	0.9	45	5.6	25	3.4
85~94	26	10.4	7	3.4	36	12.6	23	8.0	10	6.5	7	5.2	6	5.1	7	6.0	78	9.7	44	5.9
95~104	30	12.0	13	6.4	33	11.5	28	9.7	19	12.3	8	5.9	14	12.0	11	9.5	96	11.9	60	8.1
105~114	49	19.6	30	14.8	55	19.2	48	16.7	25	16.2	24	17.8	19	16.2	15	12.9	148	18.3	117	15.8
115~124	51	20.4	50	25.6	52	18.2	48	16.7	26	16.9	30	22.2	21	17.9	29	25.0	150	18.6	157	21.2
125~134	36	14.4	47	23.2	33	11.5	43	14.9	23	14.9	19	14.1	20	17.1	25	21.6	112	13.9	134	18.1
135~144	21	8.4	29	14.3	29	10.1	49	17.0	21	13.6	19	14.1	16	13.7	11	9.5	87	10.8	108	14.6
145~154	11	4.4	15	7.4	19	6.6	10	3.5	4	2.6	10	7.4	4	3.4	7	6.0	38	4.7	42	5.7
155以上	7	2.8	8	3.9	8	2.8	19	6.6	11	7.1	9	6.7	6	5.1	9	7.8	32	4.0	45	6.1
人数計	250		203		286		288		154		135		117		116		807		742	
SQ平均	114.8		124.3		118.0		121.0		117.6		121.7		115.1		123.2		115.9		123.5	
標準偏差	20.2		17.4		21.4		21.7		22.6		21.4		20.5		19.2		21.3		20.0	

表1

保健所名	市町村名	経済地区帯区分	男児	女児	計
秋田	秋田市	都市近郊	250	230	453
大館	大館市	平地農村	173	172	345
	花矢町	農山村	29	45	74
	比内町	山村	85	71	156
鷹巣	鷹巣町	平地農村	154	135	289
角館	角館町	農山村	35	37	72
	西木村	農山村	47	41	88
	中仙町	平地農村	26	24	50
	田沢湖町	農山村	9	14	23
計			807	742	1549

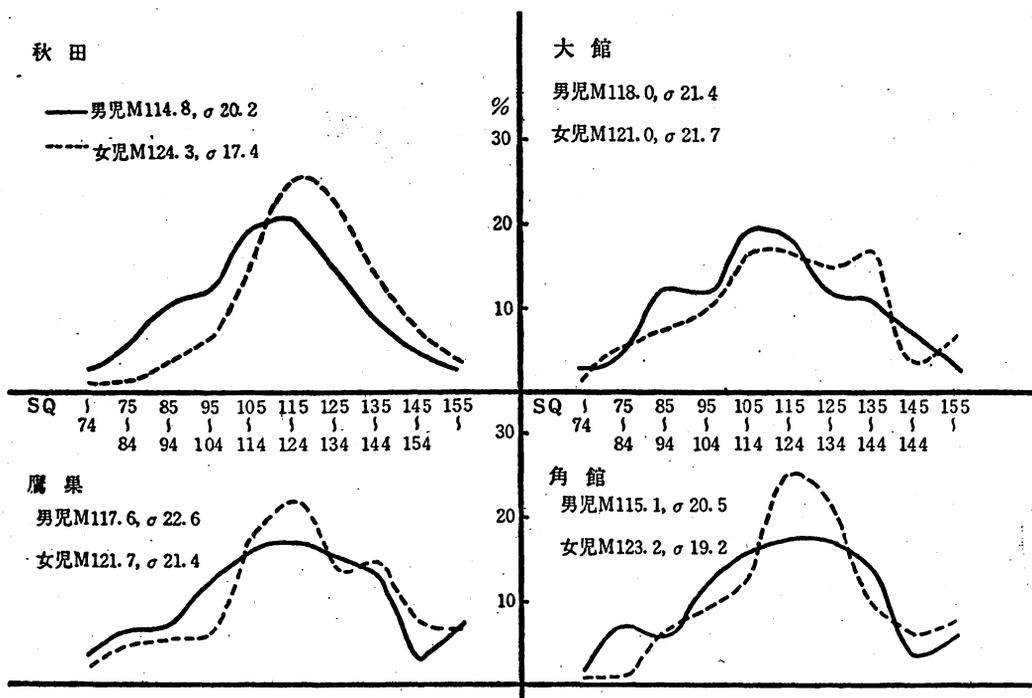
Ⅱ 成績

吾々の試案の3才児精神発達スクリーニングテストを、秋田、大館、鷹巣、角館の4地区9市町村の3才児に実施した結果は下記のとおりである。

なお、Part 1 はSQ80未満、Part 2、Part 3 は各々半分以下の得点のものを一応未成熟者としたが、最終判定は協同研究者の秋田大学中村助教授、児童相談所安倍氏によつて行なわれた。

テストに要した時間は、Part 1 を除き Part 2 から Part 3 迄は約7分~13分であった。

図2 社会成熟度 (Part 1) SQ 分布



1) Part 1 社会成熟度検査の結果

表2, 図2に示す如く, SQ 分布は各地区, 男女共に正規分布の型をしているが, 幾分高い方に偏っている。これは親の評定にたるものなので, 親の主観や要求水準が投影されていることも一応考慮する必要がある。

SQ 平均値については, 男児 115.9 (SD21.3), 女児 123.5 (SD20.0) で統計上女児の平均SQ値が男児より有意に高い。

地区別男女の差は, 秋田, 角館が統計上有意の差で女児の SQ 値が男児より高いが, 鷹巣, 大館は有意差がない。

地区別における SQ 平均値は, 男女とも著明な差は認められない。

つまり, 社会成熟度については, 地域差はあまりないが, 性別による差異があり, 女児の社会成熟度は男児より高いといえる。

2) Part 2 情緒, 性格, 態度の評定の結果。

このパートの整理は次にのべる2つの要領で行なった。

すなわち, 対象児の年齢を3才0カ月~3才6カ月未満(前半), 3才6カ月~3才12カ月未満(後半)に分け, 得点については, 各項目について3段階評定したが, 今回は便宜上+1の得点のみを対象として, 14点満点とし, 0~6点, 7~14点の段階に分けて集計した。

表3, 4, 図3は地区別, 性別のプラス得点であり, 図4はその得点百分率の累積カーブを描いたものである。これを見ると7~14点の得点者は, 秋田, 鷹巣では男女とも前半, 後半何れもその80%をしめているが, 大館の前半ならびに角館の前半, 後半は男女ともやや下まわっている。

表 3 Part 2 得点分布 男児

プラスの得点	秋田 H.C			大館 H.C			鷹巣 H.C			角館 H.C			計		
	前半	後半	計	前半	後半	計	前半	後半	計	前半	後半	計	前半	後半	計
0	7	3	10	0	0	0	0	0	0	2	4	6	9	7	16
1	3	2	5	2	0	2	1	0	1	4	0	4	10	2	12
2	3	4	7	1	0	1	1	1	2	5	2	7	10	7	17
3	6	0	6	4	5	9	3	5	8	6	3	9	19	13	32
4	3	1	4	2	4	6	2	0	2	2	2	4	9	7	16
5	2	4	6	5	2	7	5	4	9	2	6	8	14	16	30
6	6	2	8	11	5	16	4	5	9	3	3	6	24	15	39
7	12	5	17	9	0	9	3	1	4	2	6	8	26	12	38
8	9	5	14	14	4	18	3	9	12	5	2	7	31	20	51
9	16	11	27	7	4	11	6	7	13	2	7	9	31	29	60
10	18	6	24	18	14	32	4	9	13	4	7	11	44	36	80
11	24	14	38	19	19	38	5	10	15	3	9	12	51	52	103
12	12	20	32	21	23	44	3	15	18	5	3	8	41	61	102
13	7	16	23	26	18	44	10	6	16	6	5	11	49	45	94
14	3	4	7	10	16	26	7	7	14	4	2	6	24	29	53
計	131	97	228	163	124	287	57	79	136	55	62	117	406	362	768

表 4 Part 2 得点分布 女児

プラスの得点	秋田 H.C			大館 H.C			鷹巣 H.C			角館 H.C			計		
	前半	後半	計	前半	後半	計	前半	後半	計	前半	後半	計	前半	後半	計
0	4	3	7	2	0	2	0	0	0	0	2	2	6	5	11
1	0	1	1	0	1	1	1	0	1	1	3	4	2	5	7
2	3	1	4	0	1	1	0	0	0	7	1	8	10	3	13
3	2	3	5	2	1	3	0	0	0	2	4	6	6	8	14
4	2	0	2	8	5	13	1	0	1	4	1	5	15	6	21
5	6	4	10	7	3	10	7	2	9	3	1	4	23	10	33
6	7	2	9	7	4	11	0	2	2	6	3	9	20	11	31
7	4	3	7	10	5	15	2	5	7	5	1	6	21	14	35
8	10	3	13	8	5	13	4	2	6	2	3	5	24	13	37
9	10	8	18	5	7	12	3	4	7	2	4	6	20	23	43

10	12	12	24	9	13	22	4	11	15	11	3	14	36	39	75
11	19	10	29	18	18	36	7	8	15	3	2	5	47	38	85
12	17	12	29	21	18	39	9	10	19	4	10	14	51	50	101
13	10	12	22	24	20	44	8	16	24	4	8	12	46	56	102
14	5	5	10	20	18	38	5	7	12	3	11	14	33	41	74
計	111	79	190	162	126	288	51	67	118	59	57	116	383	329	712

図 3

Part 2 の保護者および検査者の観察状況

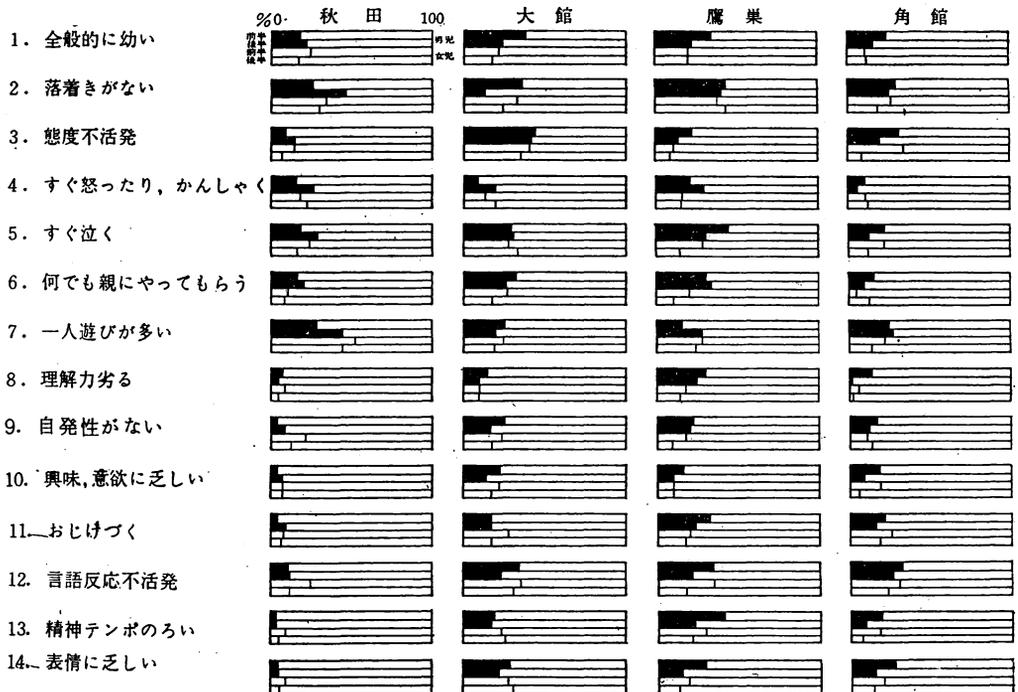
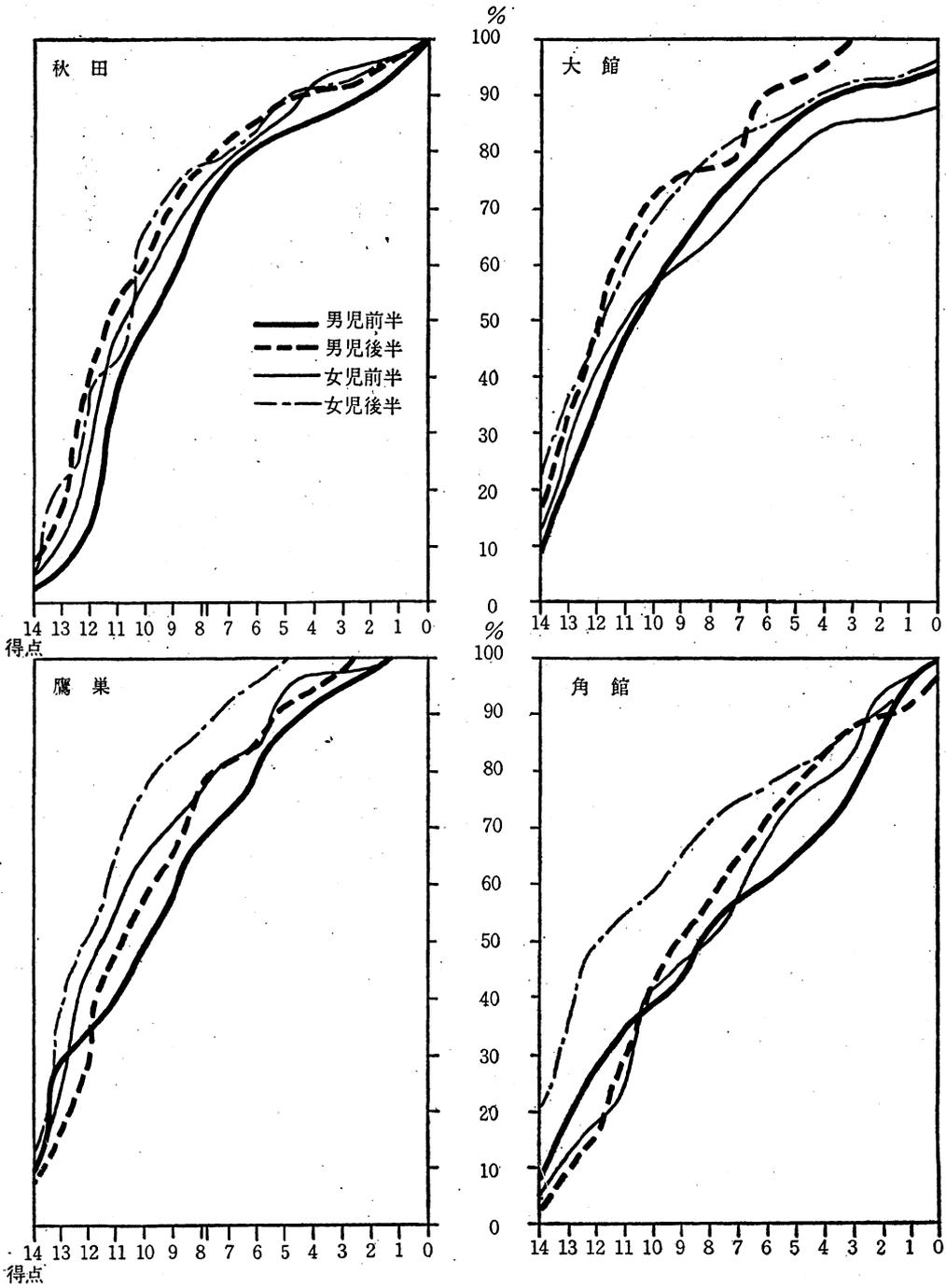


図 4 情緒, 性格, 態度 (Part 2) の得点率



Part 2 の地区別パターンを図5で見るとさらに明確にしめされる。すなわち、0-6点、7-14点それぞれの前半、後半別得点推移をみると、6点未満の得点者は、地区別、性別に変わりなく前半グループの占める率が高く、7点以上の得点者は後半グループの占める率が高くなっている。

しかしながら、地区別の型を比較してみると秋田、大館はほぼ同様の型であるが、鷹巣、角館は男女間に

開きがみられる。これは、男児の6点未満の得点者率が多いためである。

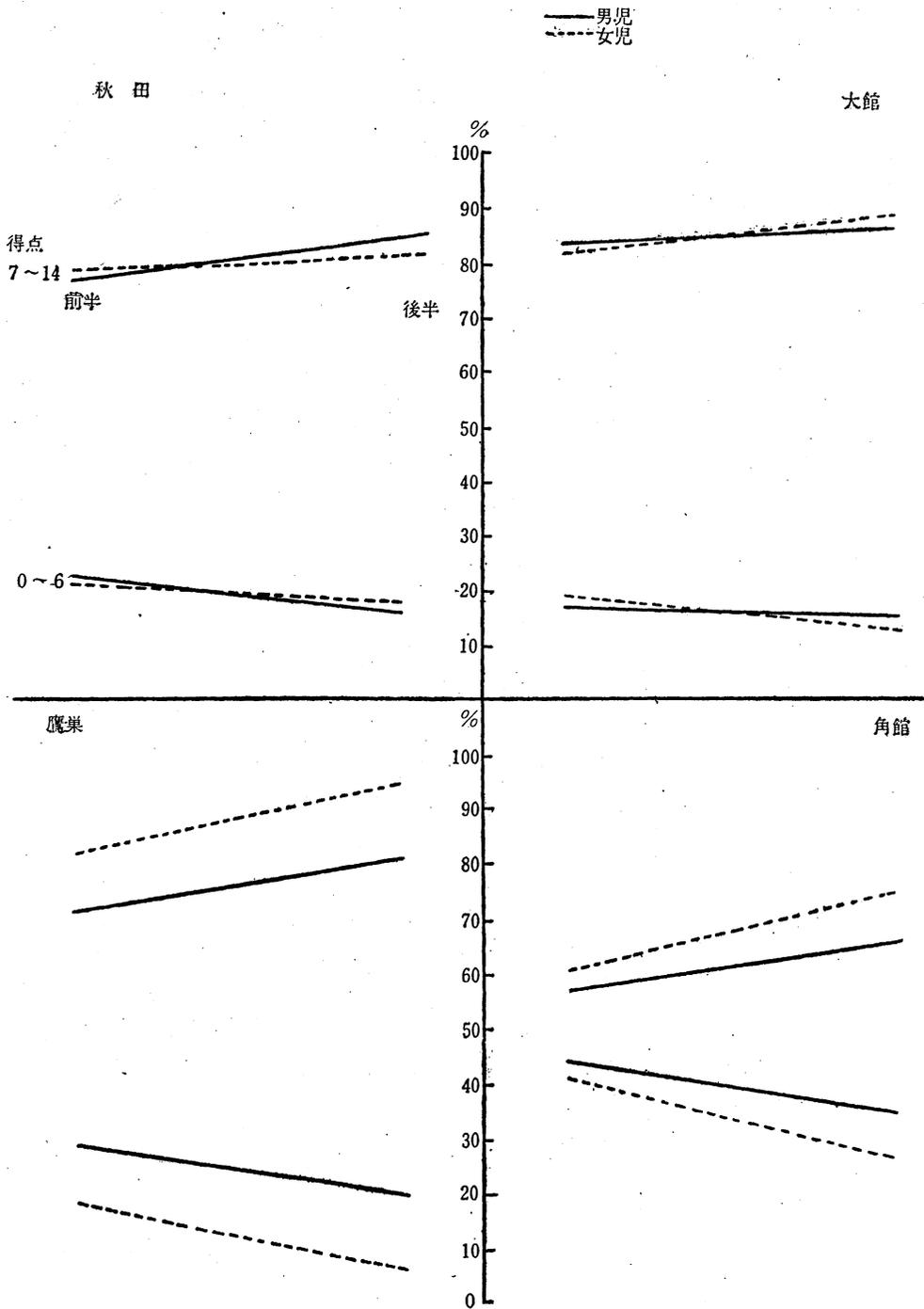
つまり、女兒の得点率が同じ地区の男児より得点率が高いということになる。

角館の場合は4地区の中、最も異なった型となり、他の地区に比し男女とも得点率の低いことを示している。

表 4 Part 2 得点分布

	秋 田			大 館			鷹 巣			角 館			計				
	前半	後半	計	前半	後半	計	前半	後半	計	前半	後半	計	前半	後半	計		
男	0 5 6	N	30	16	46	25	16	41	16	15	31	24	22	46	95	69	164
		%	(22.9)	(16.5)	(20.2)	(16.8)	(14.0)	(15.6)	(28.1)	(19.0)	(22.8)	(43.6)	(34.9)	(39.0)	(24.2)	(19.5)	(22.0)
	7 5 14	N	101	81	182	124	98	222	41	64	105	31	41	72	297	284	581
		%	(77.1)	(83.5)	(79.8)	(83.2)	(86.0)	(84.4)	(71.9)	(81.0)	(77.2)	(56.4)	(65.1)	(61.0)	(75.8)	(80.5)	(78.0)
女	0 5 6	N	24	14	38	26	15	41	9	4	13	23	15	38	82	48	130
		%	(21.6)	(17.7)	(20.0)	(18.4)	(12.6)	(15.8)	(17.6)	(6.0)	(11.0)	(40.4)	(26.3)	(33.3)	(22.8)	(14.9)	(19.1)
	7 5 14	N	87	65	152	115	104	219	42	63	105	34	42	76	278	274	552
		%	(78.4)	(82.3)	(80.3)	(81.6)	(87.4)	(84.2)	(82.4)	(94.0)	(89.0)	(59.6)	(73.7)	(66.7)	(77.2)	(85.1)	(80.9)

図 5 Part 2 の得点推移 (3才前半～後半)



3) Part 3 精神検査の結果。

年齢については、Part 2 と同様に3才前半、後半に分け、採点は、各問題通過にたいして1点を与え5点満点とし0～2点、3～5点の2つの段階に分けて集計した。

表6は地区別、性別のプラス得点分布である。これをPart 2と同様前半、後半の年齢による得点推移により、地区別パターンをみると図6の如くである。

すなわち、0～2点の低い得点者は、秋田、大館、鷹巣は性別に変わりなく前半グループの占める率が高く、3～5点の高得点者は後半グループが高くなっている。これに比し、角館は男児が逆の傾向を示した。

性別では、秋田、角館で前半、後半何れも男児が女児より高得点であり、鷹巣、大館は後半グループで男児が女児を上まわっている。

表 6 Part 3 得点分布

		秋 田			大 館			鷹 巣			角 館			計			
		前半	後半	計	前半	後半	計	前半	後半	計	前半	後半	計	前半	後半	計	
男	0 2	N	8	1	9	16	5	21	13	7	20	1	4	5	38	17	55
		%	(6.2)	(1.0)	(3.9)	(10.3)	(4.3)	(7.7)	(22.8)	(8.8)	(14.6)	(2.0)	(5.3)	(4.0)	(9.7)	(4.6)	(7.2)
	3 5	N	122	99	221	140	112	252	44	73	117	48	72	120	354	356	710
		%	(93.8)	(99.0)	(96.1)	(89.7)	(95.7)	(92.3)	(77.2)	(91.2)	(85.4)	(98.0)	(94.7)	(96.0)	(90.3)	(95.4)	(92.8)
女	0 2	N	7	2	9	11	6	17	10	9	19	4	4	8	32	21	53
		%	(6.4)	(2.5)	(4.8)	(7.1)	(4.8)	(6.1)	(19.2)	(12.9)	(15.6)	(7.4)	(7.5)	(7.5)	(8.7)	(6.4)	(7.6)
	3 5	N	102	77	179	143	118	261	42	61	103	50	49	99	337	305	642
		%	(93.6)	(97.6)	(95.2)	(92.9)	(95.2)	(63.9)	(80.8)	(87.1)	(84.4)	(92.6)	(92.5)	(92.5)	(91.3)	(93.6)	(92.4)

図 6

Part 3 の得点推移 (3才前半~後半)

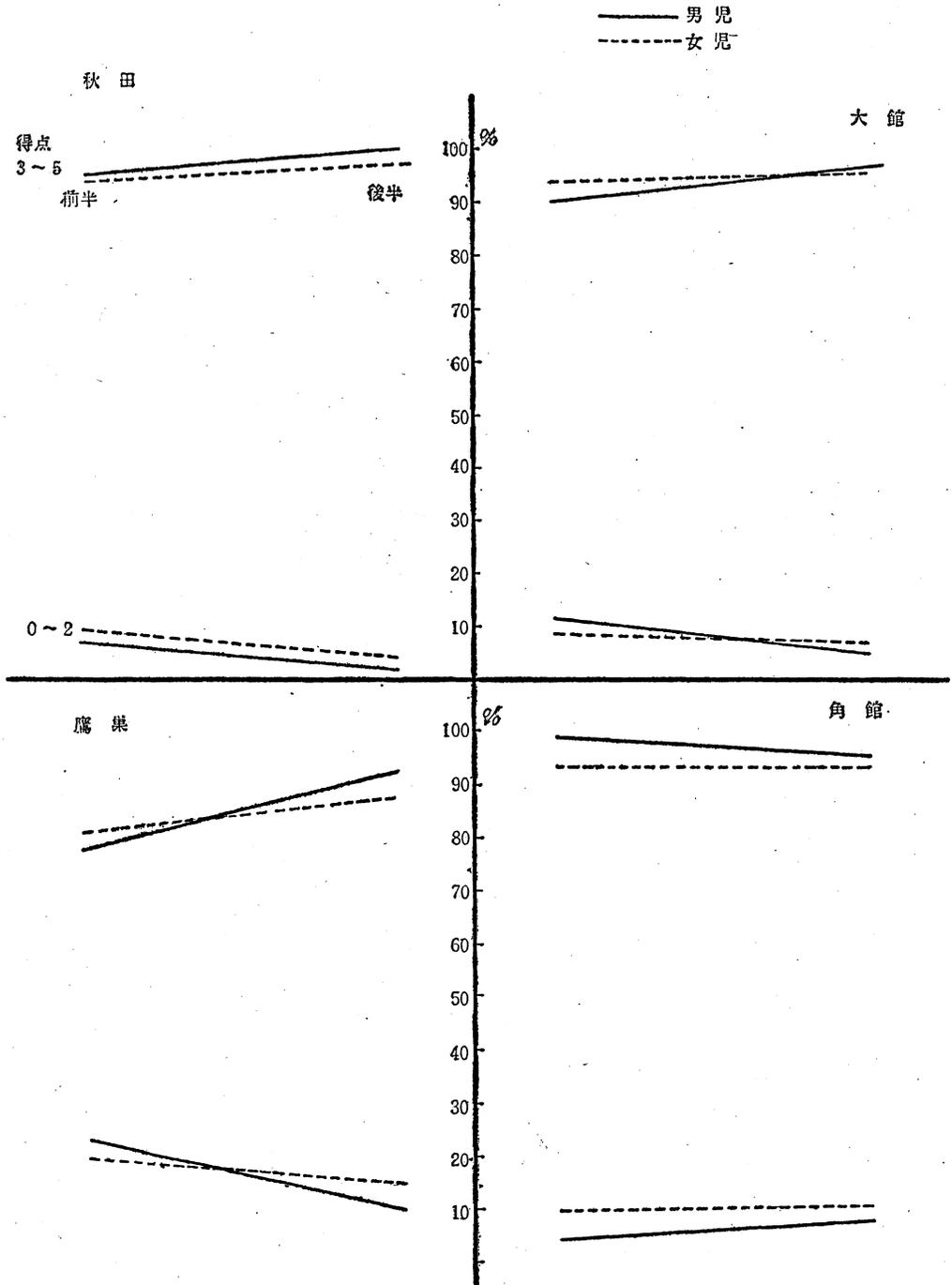


表7, 8は項目別得点状況であるが, その失点状況を地区別, 性別に比較してみると図7の如くである。

表7 Part 3 項目別得点 男児

項目	前 半						後 半						計					
	人数計	+		-		人数計	+		-		人数計	+		-				
		N	%	N	%		N	%	N	%		N	%	N	%			
秋 田	1	131	129	98.5	2	1.5	100	99	99.0	1	1.0	231	228	98.0	3	1.3		
	2	130	116	89.2	14	10.8	99	97	98.0	2	2.0	229	213	93.0	16	7.0		
	3	127	117	92.1	10	7.9	101	99	98.0	2	2.0	228	216	94.7	12	5.3		
	4	126	84	66.7	42	33.3	99	81	81.8	18	18.2	225	165	73.3	60	26.7		
	5	129	123	95.3	6	4.7	99	97	98.0	2	2.0	228	220	96.5	8	3.5		
大 館	1	162	152	93.8	10	6.2	123	117	95.1	6	4.9	285	269	94.4	16	5.6		
	2	162	146	90.1	16	9.9	123	113	91.9	10	9.1	285	259	90.9	26	9.1		
	3	159	130	81.8	29	18.2	119	104	87.4	15	12.6	278	234	84.2	44	15.8		
	4	159	110	69.2	49	30.8	127	106	83.5	21	16.5	286	216	75.5	70	24.5		
	5	161	142	88.2	19	11.8	122	115	94.3	7	5.7	283	257	90.8	26	9.2		
鷹 巣	1	56	53	94.6	3	5.4	79	76	96.2	3	3.8	135	129	95.6	6	4.4		
	2	55	48	87.3	7	12.7	80	71	88.8	9	11.2	135	119	88.1	16	11.9		
	3	55	34	61.8	21	38.2	79	66	83.5	13	16.5	134	100	74.6	34	25.4		
	4	56	18	32.1	38	67.9	78	36	46.2	42	53.8	134	54	40.3	80	59.7		
	5	54	43	79.6	11	20.4	79	70	88.6	9	11.4	133	113	85.0	20	15.0		
角 館	1	55	53	96.4	2	3.6	62	61	98.4	1	1.6	117	114	97.4	3	2.6		
	2	54	52	96.3	2	3.7	60	58	96.7	2	3.3	114	110	96.5	4	3.5		
	3	54	52	96.3	2	3.7	61	59	96.7	2	3.3	115	111	96.5	4	3.5		
	4	53	43	81.1	10	18.9	61	49	80.3	12	19.7	114	92	80.7	22	19.3		
	5	54	52	96.3	2	3.7	62	58	93.5	4	6.5	116	110	94.8	6	5.2		
計	1	404	387	95.8	17	4.2	364	353	97.0	11	3.0	768	740	96.4	28	3.6		
	2	401	362	90.3	39	9.7	362	339	93.6	23	6.4	763	701	91.9	62	8.1		
	3	395	333	84.3	62	15.7	360	328	91.1	32	8.9	755	661	87.5	94	12.5		
	4	394	255	64.7	139	35.3	365	272	74.5	93	25.5	759	527	69.4	232	30.6		
	5	398	360	90.5	38	9.5	362	340	93.9	22	6.1	760	700	92.1	60	7.9		

㊤問題1 形態弁別

田中ビナー法2才級の問題で, 各地区男女とも最も成績がよい。秋田がやや失点率が少ない傾向にみられるが実数で大差ない。

㊤問題2 積木作り

男女共秋田の後半が最もよい成績である。前半では角館の男児の失点率が低い, 他は地区別, 性別の差がほとんどみられない。

表 8 Part 3 項目別得点 女児

		前 半				後 半				計						
		人数計	+		-		人数計	+		-		人数計	+		-	
			N	%	N	%		N	%	N	%		N	%	N	%
秋 田	1	109	106	97.2	3	2.8	79	78	98.7	1	1.3	188	184	97.9	4	2.1
	2	108	95	88.0	13	12.0	78	76	97.4	2	2.6	186	171	91.9	15	8.1
	3	106	98	92.5	8	7.5	77	74	95.1	3	3.9	183	172	94.0	11	6.0
	4	109	73	67.0	36	33.0	78	61	78.2	17	21.8	187	134	71.7	53	28.3
	5	106	102	96.2	4	3.8	73	72	98.6	1	1.4	179	174	97.2	5	2.8
大 館	1	173	163	94.2	10	5.8	126	122	96.8	4	3.2	299	285	95.3	14	4.7
	2	173	152	87.9	21	12.1	125	118	94.4	7	5.6	298	270	90.6	28	9.4
	3	170	150	88.2	20	11.8	124	115	92.7	9	7.3	294	265	90.1	29	9.9
	4	169	127	75.1	42	24.9	126	101	80.2	25	19.8	295	228	77.3	67	22.7
	5	171	154	90.1	17	9.9	125	120	96.0	5	4.0	296	274	92.6	22	7.4
鷹 巣	1	52	46	88.5	6	11.5	69	67	97.1	2	2.9	121	113	93.4	8	6.6
	2	52	46	88.5	6	11.5	68	61	89.7	7	10.3	120	107	89.2	13	10.8
	3	52	37	71.2	15	28.8	68	58	85.3	10	14.7	120	95	79.2	25	20.8
	4	52	21	40.4	31	59.6	65	32	49.2	33	50.8	117	53	45.3	64	54.7
	5	51	42	82.4	9	17.6	68	59	86.8	9	13.2	119	101	84.9	18	15.1
角 館	1	58	53	91.4	5	8.6	57	53	93.0	4	7.0	118	109	92.4	9	7.6
	2	58	52	89.7	6	10.3	56	49	87.5	7	12.5	121	108	89.3	13	10.7
	3	58	54	93.1	4	6.9	57	52	91.2	5	8.8	120	111	92.5	9	7.5
	4	59	44	74.6	15	25.4	57	49	86.0	8	14.0	124	101	81.5	23	18.5
	5	59	52	88.1	7	11.9	56	52	92.9	4	7.1	119	108	90.8	11	9.2
計	1	392	338	93.9	24	6.1	331	320	96.7	11	3.3	723	688	95.2	35	4.8
	2	391	345	88.2	46	11.8	327	304	63.0	23	7.0	716	649	90.4	69	9.6
	3	391	339	86.7	52	13.3	326	299	91.7	27	8.3	717	638	89.0	79	11.0
	4	389	265	68.1	124	31.9	326	243	74.5	83	25.5	715	508	71.0	207	29.0
	5	387	350	90.4	37	9.6	322	303	94.1	19	5.9	709	653	92.1	56	7.9

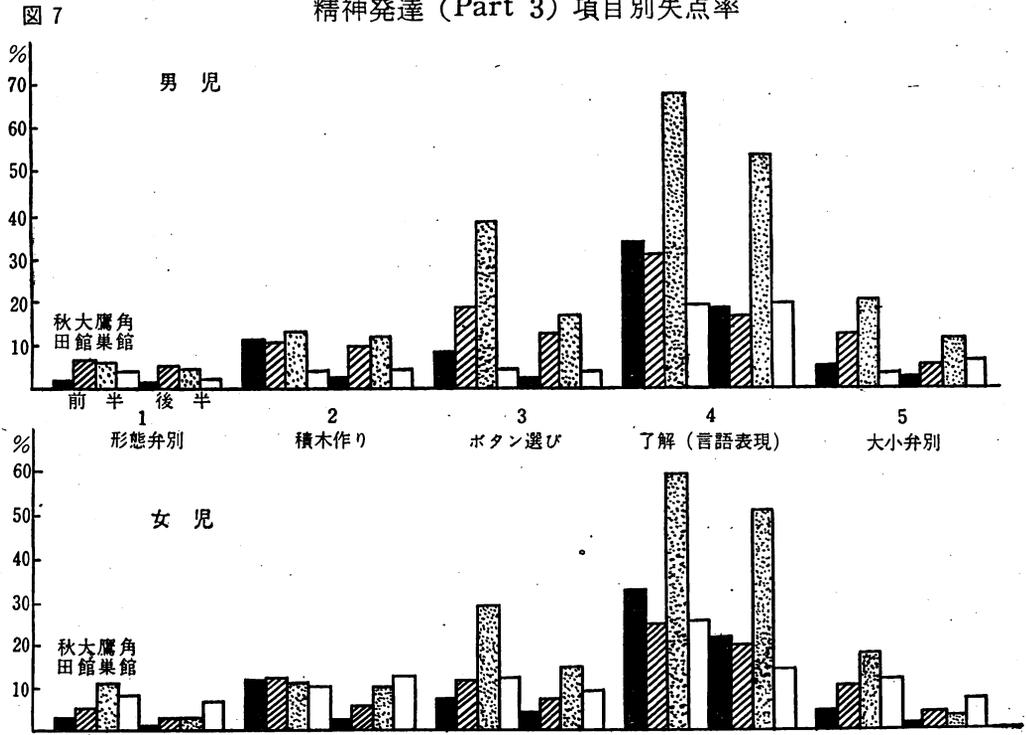
◎問題3 白黒ボタン選び。(比較抽象)

各地区男女とも前半に比し後半の成績がよく年齢差が明らかである。地区別には秋田の男女、角館の男児の失点率が低くなっている。

◎問題4 言語了解, 表現。

4地区共, 5問中最も失点者が多い。角館の男児を除き, 他は各地区男女とも前半に比し後半の成績がややよい傾向がみられる。地区別には鷹巣の失点率が目立って高い。また, 秋田が大館, 角館の農村部に比し前半後半, 男女共に失点率が高い。

精神発達 (Part 3) 項目別失点率



◎問題5 大小弁別。

各地区男女とも前半に比し、後半の成績がよく、ボタン選びと同様に年齢差が明らかである。地区別には秋田の失点率が最も低く、ついで大館、角館、鷹巣の順となった。

4) 未成熟者

表9、図8は各パートにおける未成熟者の出現率をまとめたものである。

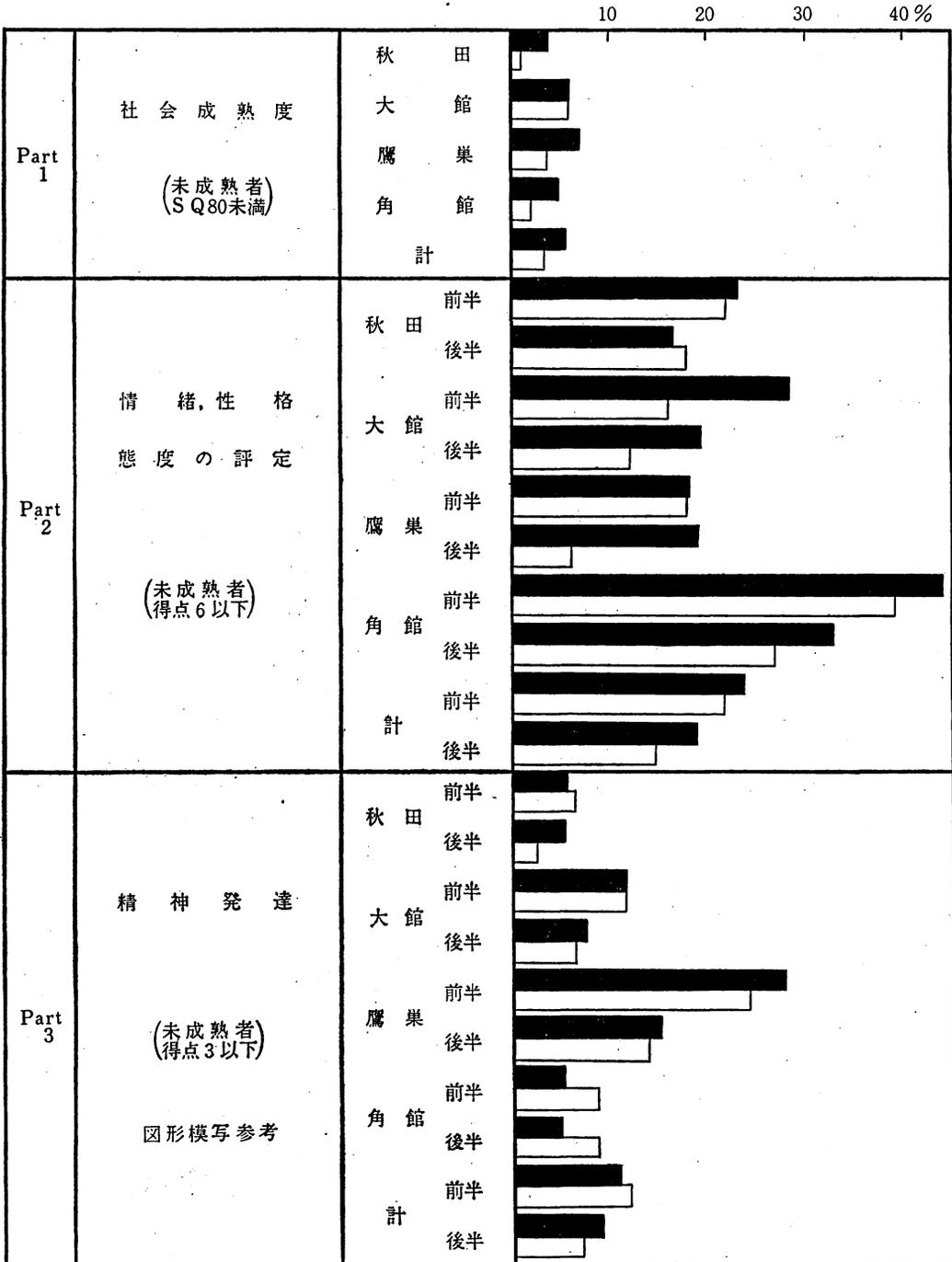
地区別の比較では、Part 2の角館、Part 3の鷹巣の出現率が高い。

表9 未成熟者数

検査項目	保健所名	男			女		
		人数	未成熟者数	%	人数	未成熟者数	%
Part 1 社会成熟度 (未成熟者: SQ 80未満)	秋田	250	10	4.0	203	2	1.0
	大館	191	6	3.1	183	5	2.7
	鷹巣	154	11	7.1	135	5	3.7
	角館	112	5	4.5	116	2	1.7
	計	707	32	4.5	637	14	2.2

Part 2 (未成熟者 得点6以下)	情緒、性格、 態度の評定	秋田	前半	131	30	22.9	110	26	23.6
		秋田	後半	96	16	16.7	79	14	17.7
		大館	前半	125	5	4.0	124	6	4.8
		大館	後半	77	5	6.5	93	7	7.5
	鷹巣	前半	55	15	27.3	53	10	18.9	
		後半	79	15	19.0	65	4	6.2	
	角館	前半	55	19	34.5	59	11	18.6	
		後半	62	14	22.6	57	11	19.3	
	計	前半	356	69	18.9	346	53	15.3	
		後半	314	50	15.9	294	36	12.2	
Part 3 (未成熟者 得点3以下 図形漢字 参考)	精神発達	秋田	前半	131	7	5.3	109	7	6.4
		秋田	後半	99	5	5.1	81	2	2.5
	大館	前半	163	28	17.2	163	26	16.0	
		後半	77	1	1.3	93	0	0	
	鷹巣	前半	55	15	27.3	54	13	24.1	
		後半	80	12	15.0	67	9	13.4	
	角館	前半	55	2	3.6	59	5	8.5	
		後半	62	2	3.2	57	4	7.0	
	計	前半	404	52	12.9	385	51	13.2	
		後半	318	20	6.3	298	15	5.0	

図 8 未成熟者各 Part 別出現率



今回の調査の段階では、未成熟者について論及出来ない。今後検査者の熟練と、本法の信頼性、妥当性を極め、さらに資料を積み重ねた後に可能になることである。

VI まとめ

以上、吾々の試案による3才児精神発達スクリーニングテストを秋田、大館、鷹巣、角館の4地区1549名に行ない、その各Partの年令別、地区別、性別を比較検討してみた。

その結果を総合してみると、

- 1) 社会成熟度に関しては、4地区とも大差なく、何れも女兒が男児に比し社会成熟度指数が高い。
- 2) 情緒、性格、態度の評定は、各地区男女とも年齢が高くなるにつれ得点も高い。性別では、全体として同地区の男児に比し女兒が日常生活で安定した傾向を示した。
- 3) 知的発達においても、後半の得点が高く、殊にボタン遊び、大小弁別において明らかに年令差がみられた。性別では男児が女兒より全般的に若干高得点を得ている。言語理解、表現は5問中4地区男女共に失点率が高い。
- 4) テスト構成の信頼性、妥当性については、4地区においてそれぞれ多くのテスターによって、Part 2〜Part 3を平均7〜13分で行なわれたにもかかわらず、各パートで著しい差がなく、ほぼ同様の傾向が認められたことより、ある程度肯定出来るものと思われる。

しかしながら、社会成熟度は、親(家族)の評定によるものであり、親の要求あるいは観察水準が投影されているわけであるが、本県の場合特に考慮の必要があるものと思われる。例えば本調査で、検診会場の混雑を防ぐ意味で、3才児検診通知と共に事前に配布し家族相談の上検討し記入することとした地区もあるが、母親の記入は意外に少なく父あるいは祖父によって行なわれている。このことは、本県の若い母親の家庭の座を端的に示しており、3才児発達の基礎的認識の普及と共に合せて考えねばならない重要な問題である。最も失点率の高かった言語理解、表現は本県全体の問題として、言語を通しての知的機能の表出の拙劣を物語っており、県民性としての社会環境に由来するもので、子供の広い意味での社会化に大きな影響を与えているのではないかと推察される。

この度の調査地区は、秋田市を除き他は農林省経済地区帯区分によれば農村として代表される。成績全般を通してみれば、今回の調査成績ではたしかに秋田市の失点者が少ない状態である。しかし、行動面では農村女子が

むしろ安定の傾向を示しており、知的面でも積木作り、言語理解、表現でもみられるように、3才前半では秋田に比し農村が逆に優位の傾向さえある。

愛育研究所グループの調査でも、必ずしも都市優越の傾向が表われない成績を示しており、“日本の乳児たちは、その人生の当初にあたって何らの地域的ハンディキャップなしに育っており、学童期以後に著しい都鄙間の差が出てくるのは、その後の教育条件、文化条件、親の態度の相違によるもの”といっているが、今後の子供達への期待と共に、吾々大人の社会人としての責任を痛感する。

本調査では、スクリーニングテスト試案の信頼性、妥当性の具体的な証明まで及び得なかったが、多くのテスターによって行なわたにもかかわらず、各地区ほぼ同様の傾向をみたことよりある程度望みが得られた。今後さらに熟練を重ね諸先生、保健婦その他関係の皆様と共に調査地区を広め、信頼性妥当性の検討を深めつつ、スクリーニングの価値を高めると共に、本県の3才児の発達像をつかみたいものと思う。

なお、この調査を施行したことより、検査場面の子供の態度行動の上に、家族が日常家庭ではみられない一面を知る場合も多く、こうした事態を重ねることより、3才児については子供への理解も一層深まるものと期待したい。

将来は、3才児検診のルールの上めくりとして保健指導の参考資料としながら、親にも子供にもテスト的感覚を与えずに、極めて自然な話し合いの中にスクリーニングの目的も果し得るといふところまでもっていきたい。

県内諸先生の御指導を賜り、秋田県にふさわしいよりよいものにしていけるならば幸いなことと思う。

稿を終るにあたり、テスト構成ならびに総合判定に絶大の御協力、御指導賜りました秋田大学心理学部助教授中村四郎先生、ならびに秋田県中央児童相談所心理判定員安倍正男先生に衷心より感謝申し上げます。

また、3才児検診の場を与えて下さいました秋田、大館、鷹巣、角館保健所長ならびに予防係の皆様、そして直接スクリーニングテストに御協力いただきました保健所保健婦、市町村保健婦の皆様様に深謝いたします。

文 献

- 1 田中 憲一：田中ビネー式知能検査法 1953
- 2 鈴木治太郎：實際的個別的知能測定法 1952
- 3 牛島義友他：日本総合愛育研究所紀要 第1集 1965
- 4 中村四郎他：小児の精神と神経 6(4) 1966
- 5 小西 玲子：あきた、心の衛生 5号 1967

附 問診法による母親と保母の

評価の相違 (保育所幼児)

母子衛生科 小 西 玲 子
小 野 山 直 子

I 目 的

3才児精神発達にかかわるスクリーニングは、各地において行なわれているが、多くの場合そのほとんどが問診又はアンケート方式が用いられている。我々も3才児検診に、精神検査導入の試みにあたり、母親（又は父、祖父母）の観察の信頼性について、知り得たい意図のもとに保育所の園児に対し、Part 2 情緒・性格・態度の保護者からの聴取の欄に関して、特に母親からの聴き取りに加えて、受持の保母からも記入してもらった。その観察状況についてのべてみたい。

表 1 調査対象

場 所	男 名	女 名	計 名
ひまわり 保育園	32	18	51
第一ルンビニ園	17	14	31
第二ルンビニ園	7	12	19
新屋第二保育所	11	13	24
矢島 保育所	25	17	42
鷹巣 保育所	27	9	36
計	120	83	203

表 3 Part 2 情緒・性格・態度の評定

	+ 1	0	- 1	
保 護 者 からの聴取	全般的に態度がしっかりしている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	全般的に幼い
	落ち着いた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	落ち着きがない
	態度が活発である	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	不活発
	感情的にならずに聞きわけがよい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	すぐ怒ったり、かんしゃくを起したりする
	減多に泣かない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	すぐ泣く
	自分のことは自分でやろうとする (自立的)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	何でも親にやってもらおうとする (依存的, 甘える)
	近所の子とも遊ぶのを好む	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	ひとり遊びが多い

表 2 調査者年令

年 令	男	女	計
3才	29名	13名	42名
4	49	37	86
5	31	31	62
6	11	3	13
計	120	83	203

II 調査対象

調査場所は表1に示す如く、秋田市所在の4保育所、矢島ならびに鷹巣の各保育所、計7カ所である。対象人員は、男児120名、女児83名の計203名で、これを年令別に見ると、表2の如く、3才から6才までの幼児である。

III 調査方法

表3に示す7項目につき、母親（父親3名）から面接によって聴取をした後、その園児の担当保母より、同じ用紙にチェックしてもらった。

両者の評価の相違を集計するにあたり、母親が+1につけ、保母が-1につけた場合、及びその反対の場合を不一致とした。

Ⅳ 成 績

1) 項目別状況

項目別の母親ならびに保母の観察状況をみると、表4、図1に示す如くである。すなわち、

①全般的に態度がしっかりしている。全般的に幼い。

男児120名中、観察の一致している者81名(67.5%)、不一致の者34名(28.3%)となっている。この不一致34

名の内訳は母親+、保母-の場合が17名；母親-、保母+の場合が17名と同じ割合になっている。女兒は、83名中、一致している者58名(69.9%)、不一致の者23名(27.7%)で7項目中、不一致率が最も高い。不一致23名の中、母親+、保母-の場合が8名(34.8%)母親-、保母+の場合が15名(65.2%)である。

②落着いている。落着きがない。

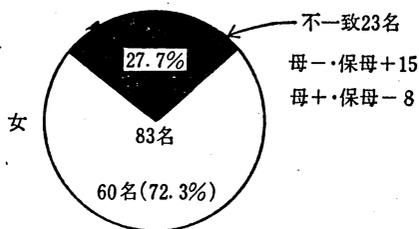
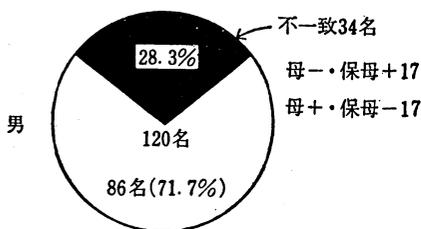
男児120名中、一致している者82名(68.3%)不一致

表4 項目別による母親と保母の観察状況

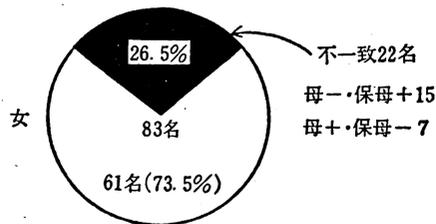
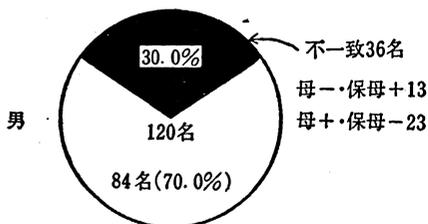
	男 (総数 120名)				女 (総数 83名)			
	不一致者数(率)	母親-保母+	母親+保母-	一致者数記入(率)	不一致者数(率)	母親-保母+	母親+保母-	一致者数記入(率)
全般的に態度がしっかりしている	34(28.3%)	17(50.0%)	17(50.0%)	81(67.5%)	23(27.7%)	15(65.2%)	8(34.8%)	58(69.9%)
落着いている	36(30.0%)	13(36.1%)	23(63.9%)	82(98.3%)	22(26.5%)	15(68.2%)	7(31.8%)	60(72.3%)
態度が活発である	22(18.3%)	12(54.5%)	10(45.5%)	97(68.3%)	121(25.3%)	5(23.8%)	16(76.2%)	59(71.1%)
感情的にならずに聞きわけがよい	22(18.3%)	10(45.5%)	12(54.5%)	96(80.0%)	219(22.9%)	11(57.9%)	8(42.1%)	60(72.3%)
減多に泣かない	23(19.2%)	7(30.4%)	16(69.6%)	97(80.8%)	019(22.9%)	7(36.8%)	12(63.2%)	72(86.7%)
自分のことは自分でやろうとする	30(25.0%)	20(66.7%)	10(33.3%)	88(73.3%)	212(14.5%)	6(50.0%)	6(50.0%)	69(83.1%)
近所の子ともと遊ぶのを好む	13(10.8%)	6(46.2%)	7(53.8%)	107(89.2%)	09(10.8%)	5(55.6%)	4(44.4%)	70(84.3%)

図1 Part 2 (保護者からの聴取) の母と保母の観察の不一致率 (保育所)

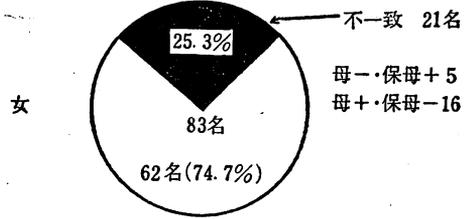
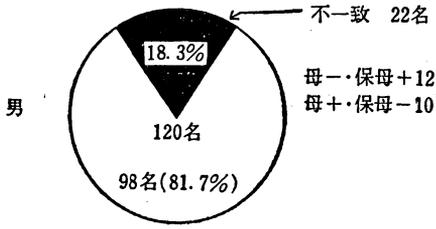
1. 全般的に態度がしっかりしている



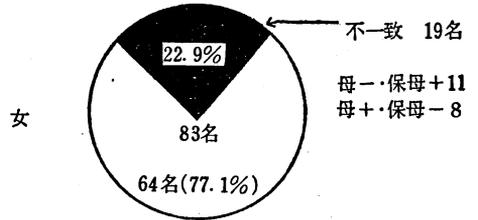
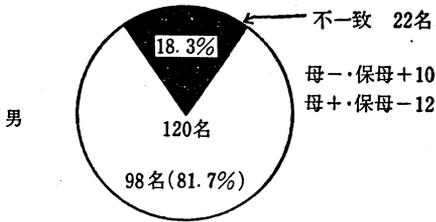
2. 落着いている



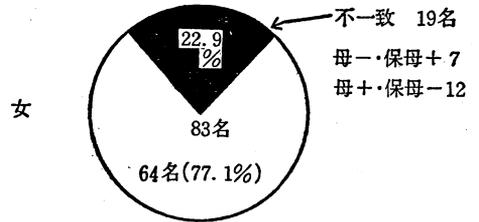
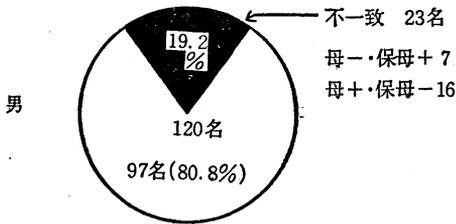
3. 態度が活発である



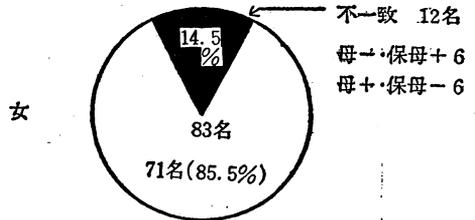
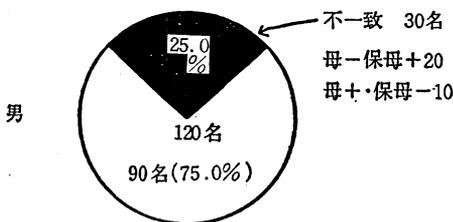
4. 感情的にならずに聞きわけがよい



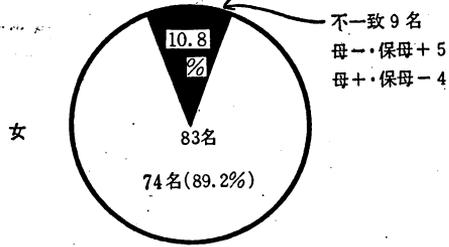
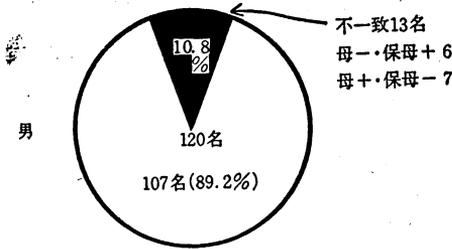
5. 減多に泣かない



6. 自分のことは自分でやろうとする。



7. 近所の子とも遊ぶのを好む



の者36名(30.0%)で、他の項目に比べて不一致が最も多い。不一致36名中23名(63.9%)が母親が落着きがあるとみているのに対し、保母はその反対の評定をしている。

① 女兒は83名中、一致している者60名(72.3%)、不一致の者22名(26.5%)でその内訳をみると母親-、保母+が15名(68.2%)、母親+、保母-が7名(31.8%)と男児とは逆に、母親が落着きがないとみているのに、保母が落着いているとみている方が多い。

② 態度が活発である。不活発である。

男児120名中、一致している者97名(80.8%) 不一致の者22名(18.3%)で、この不一致22名中、母親-、保母+が12名(54.5%)、母親+、保母-が10名(45.5%)である。

女兒は83名中、一致者59名(71.1%)、不一致の者21名(25.3%)でこの不一致者の中16名(76.2%)が母親+、保母-で、母親が活発であるとみているのに対し、保母は不活発とみている。

③ 感情的にならず聞きわけがよい。すぐ怒ったり、かんしゃくを起したりする。

男児120名中、一致者96名(80.0%) 不一致22名(18.3%) 不一致22名中、母親-、保母+が10名(18.3%)、母親+、保母-が12名(54.5%)である。

女兒33名中、一致者60名(72.3%)、不一致の者19名(22.9%)で不一致19名の中、母親-、保母+が11名(57.9%)、母親+、保母-が8名(42.1%)である。

④ 減多に泣かない。すぐ泣く。

男児120名中、一致している者97名(80.8%) 不一致の者23名(19.2%)、この不一致23名の中、母親-、保母+が7名(30.4%) 母親+、保母-が16名(69.6%)である。

女兒は、93名中一致している者72名(86.7%) 不一致

の者19名で、この不一致19名中、母親-、保母+が7名(36.8%)、母親+、保母-が12名(63.2%)である。⑤、⑥の項目とともに、女兒の不一致率が男児のそれよりも高い。

⑦ 自分のことは自分でやろうとする。何でも親にやってもらおうとする。

男児、女兒のひらきが最も大きい項目である。男児120名中、一致している者88名(73.3%)、不一致の者30名(25.0%)、この30名の内訳は母親-、保母+が20名(66.7%) 母親+、保母-が10名の33.3%である。

女兒は83名中の69名(83.1%)が一致、12名(14.5%)が不一致である。不一致の者12名の内訳は、母親+、保母-が6名、母親-、保母+も6名で同じ割合になっている。

⑧ 近所の子とも遊ぶのを好む。ひとり遊びが多い。

男児120名中、一致している者107名(89.2%) 不一致13名(10.8%)、女兒83名中、一致している者70名(84.3%)、不一致9名(10.8%)と男女とも7項目中最も低い不一致率を示している。この項目に関しては、比較的保母と母親の観察が一致している。

不一致者の内訳は男児13名中、母親-、保母+が6名(46.2%)、母親+、保母-が7名(53.8%)、女兒9名中、母親-、保母+が5名(55.6%)、母親+、保母-が4名(44.4%)である。

2) 年齢別状況

年齢別による母親と保母の観察状況を7項目の不一致者、男児163名、女兒125名についてみると表5、図2の如くである。すなわち、母親-、保母+の場合が男児では3才26.2%、4才36.8%、5才68.8%となり年齢が増すに従って保母の+の観察が増えている。これは、保母の子どもに対する期待が同一であるため3才児には年齢より厳しい態度で観察しているともみることができる。

図2 年齢別による母親と保母の観察状況

7項目の不一致者 男児163名 女児125名について

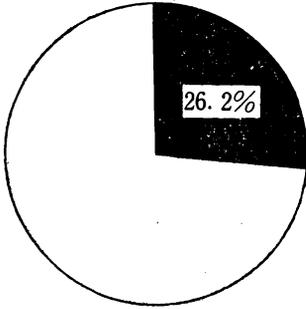
男児

女児

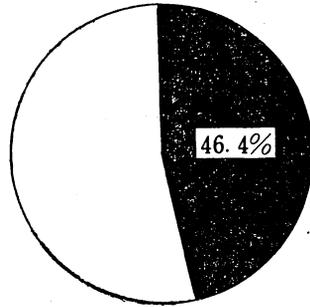
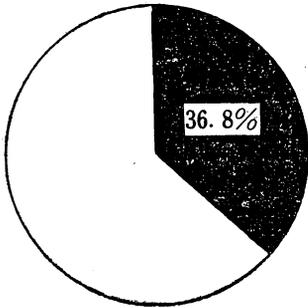
■ 母親一・保母+

■ 母親一・保母+

3才



4才



5才

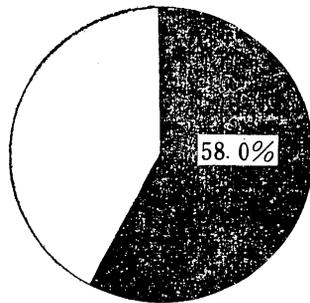
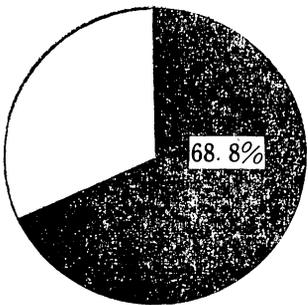


表5 年令別による母親と保母の観察状況

年令	不一致数	母親- 保母+	母親+ 保母-	一致数	記入 なし	
男	3才	42	11 (26.2) [%]	31 (73.8) [%]	156	5
	4才	57	21 (36.8)	36 (63.2)	282	4
	5才	64	44 (68.8)	20 (31.2)	153	0
女	3才	19	9 (47.4)	10 (52.6)	69	2
	4才	56	26 (46.4)	30 (53.6)	213	10
	5才	50	29 (58.0)	21 (42.0)	262	5

又母親の側からみると、反対に年令が重なるに従って一の観察の割合が多く、子どもの成長に伴ない、その期待も大きく、きびしい態度であることがうかがわれる。女児についても母親-、保母+の場合が3才で47.4%、4才46.4%、5才58.0%で男児と同様の傾向がみられるが、男児にくらべて、3才、4才の母親-、保母+の率が大きい。つまり保母の子どもに対する観察が男児より+が多く、これは女児の先天的に男児に比し所謂“おとなしい”ことに由来するものと思われる。反対に母親の観察が、3才、4才に男児より-が多いのは、女児に対し小さい時からその期待が大きく年令よりきびしく観察しているためとも考えられる。

V むすび

以上、保育所において行なった情緒、性格、態度に関する保母と母親の評定の差についてのべた。

1) 7項目それぞれの不一致率は10.8%から30.0%の間である。

2) 不一致が一番多くみられたのは、男児では落着きがある。落着きがないの項目(30.0%)、女児では全般的に態度がしっかりしている。全般的に幼い(27.7%)である。

3) 男児、女児とも不一致者が少ないのは、近所の子どもと遊ぶのを好む、ひとり遊びが多いの項目(男女とも10.8%)である。

4) 年令別に不一致の状況をみると、男児では、母親は年令が重なるにつれ、その期待が多く、保母は子どもに対する期待が同一であり、従って小さい子にきびしい態度で接し、女児では、母親の期待が小さいうちから大きく、男児に対するよりもきびしい態度であることがうかがわれた。

5) なお今回の調査から、保母と母親がそれぞれの立場から話合う必要があることは勿論だが、幼児の精神検査に当っては、親の観察のみならず検査者の子どもの直接行動観察による方法も必要であることを痛感した。

終りに望み御多忙の中を調査保育所の紹介、連絡等御尽力下さいました婦人児童課赤田氏、ならびに御協力下さいました各保育園長、保母の皆様衷心より感謝申し上げます。